



11万人が集まった教科書検定の意見撤回を求める沖縄県民大会・9月29日



No.401

編集発行人 針谷宏一
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟

〒113-0034 東京都
文京区湯島2-4-4
平和と労働センター・全労連会館
電話 03(5842)6461
FAX 03(5842)6462
http://www17.plala.or.jp/chian
定価 50円

「集団自決」の真実を隠すな 沖縄県民の怒りを全国へ



田区議四期、八六(昭和61)年、治安維持法
国賠同盟東京支部事務局長、九〇年、同中央本部事務局長、一九九七(平成9)年から同会長を歴任。自伝に『治安維持法下の青春』がある。

同盟中央本部会長中西三洋さんが十月二十七日午後四時二五分、肺炎のため死去されました。89歳。中西さんは三重県出身、十七歳で社会変革にめざめ上京。労働運動に参加し、一九三八(昭和13)年「京浜グループ事件」として治安維持法容疑で検挙。四四年再逮捕。戦後は日本共産党千代田地区委員長、千代田区議四期、八六(昭和61)年、治安維持法

訃報 同盟会長中西三洋さん

過去の戦争で唯一住民をまきこんでの地上戦が展開された沖縄の悲劇は、世代を超えて語り継ぐべき歴史の真実です。これを教科書から「軍の関与」を削除するという歴史の歪曲は文部科学省ぐるみの「靖国派集団」による策略。しかし沖縄県民十一万六千の抗議行動は、福田内閣をして「沖縄県民の声を重く受け止め」させました。憲法9条を守るとともに、「再び戦争と暗黒政治の流れ」を許さぬ国民的抗議の声を今こそひろげ、新しい政治の流れをつよめましょう。(5頁参照)

主な記事

各地でブロック会議開く	2
顕彰碑 / 岐阜・山本誠一	5
時の焦点 / 「集団自決」	5
抵抗の群像 / 節を曲げず不屈にたたかった村岡貞秋	6
同盟歌壇 / 碓田のぼる選	7
書棚 / 『渡辺順三研究』 碓田のぼる著	7
中国平和連帯の旅	8

全国大会方針にもとづく支部活動の前進へ

新たな情勢に立ち向かう各地のブロック会議

多喜二と小樽に戦いに学ぶ
北海道ブロック会議

会議は九月二十六、七日、多喜

二の街小樽に、全道九支部から二

十八人と針谷宏一中央本部事務局

長の参加で開かれ経験交流をしま

した。初日、バスで小林多喜一の

足跡を訪ね、寺井勝夫小樽支部長

の案内で多喜二文学碑や『工場細

胞』の舞台となつた北海製罐を見

た後全体会、分科会を行いました。

二日目は、八十年前の磯野小作

争議、小樽港争議とそれを指導し

た竹内清と労働者、農民のたたか

い、その伝統をスライドで学習

討論では「戦争する国」を許さ

ない共同を広げ、四ヶタの会員を

必ず回復し、五万の署名を達成す

る。各支部で、今日の憲法の基礎

を築いた治安維持法犠牲者の顕彰

も旺盛にしようと話しました。

最後に針谷さんが「北海道はこ

ても元気がある」と激励、外尾会

長は「若手を増やし育てて、組織

を強めましょう」とまとめ、また

「テロ特措法の再提案に断固反対

する」の特別決議を首相と防衛相

に送りました。(宮田汎)

年末に向け財政活動の強化を訴えます

今年の第三回全国大会は、旺盛な同盟活動を支えるために財政活動に力を入れることが強調され、県本部への還元金を増やす処置などを決めました。一方、中央財政は節約の努力にもかかわらず、今年には全国大会の開催もあつて支出が増大。年末に向けて財政活動強化が切実に求められています。そのために

第一に、同盟の拡大強化の活動と結んで長期未納者にも働きかけ会費納入を前進させましょう。また、賛助会費を積極的に集めましょう。

第二に、同盟活動への理解者も増えています。同盟内外に訴えて一千五百万円年末募金運動の目標を達成して中央納入(同盟員一人当たり中央納入三三〇円規模)を確保しましょう。

第三に、「不届」新年号掲載の名刺広告(十一月末締切、一

枠五千円、今年から県還元五百円増、中央納入二千五百円)を

増やして代金を一〇〇%回収しましょう。

第四に、『治安維持法と現代』14号から県還元も二五〇円

になりました。読者を増やして代金も一〇〇%回収しましょう。

改憲阻止・不届の歴史を継ぐ

東北ブロック会議

会議は、過去最高の八十四名が出席。島津昭中央常任理事の開会宣言、池田敏美さんのヴァイオリン・ミニコンサート、山形県本部逸見光雄会長の歓迎の挨拶に続き、近江谷中央本部副会長が報告。

「自民党は参院選公約のトップに改憲をかかげて惨敗。福田内閣も改憲路線に固執しており、国民的なたたかいに全力をつくす。同時に反戦平和、国民主権をかかげ



安倍政権のあとを継いで福田内閣が発足した。この内閣は「選挙管理内閣」と言われる。一日も早い

国会解散、総選挙を求める国民の要求は当然だ。年内はじめ来年一月解散説、予算成立後の五月説、七月の洞爺湖サミット後、八月臨時国会の冒頭解散による九月説などマスコミが書き立てる。来年の同盟の国会参議院はそんな激動のなかで行なわれる。全国から百数十名が集って、治安維持法犠牲者への国家賠償法制定を求める請願への紹介議員獲得数は、今年度は一〇九名だった。内訳は民主党七九名、共産党十八名、社民党九名、無所属一名、自民党一名、公明党〇名。紹介議員の過去最高は〇三年の二七四名。以来一四五、二一九、一〇八名と後退してきた。国賠法制定という同盟の悲願が実現するかどうかは国民世論と国会での多数派形成にかかっている。五〇万署名の達成と来るべき総選挙で国賠法制定勢力を多数派にしなければならぬ。(S)



中国5県がどうブロック会議 (島根県出雲市)

てたかかった先輩たちの歴史が日本国憲法の礎となったことを同盟独自の役割として語り継ぐ。憲法改憲反対署名と同盟五〇万署名を結合して成果をあげている経験を生かし、視野をひろげ攻勢的な運動を」とよびかけました。

各県・支部から二十一人が一年間の活動経験を報告。支部目標一万七千筆を超過達成した教訓、寺院からの署名の協力、地方議会の請願採択の経験、不屈の歴史を書籍にして普及している経験。女性会員をふやし支部に女性部をつくる教訓など、悩み苦労しながらの

活動が生きて語りられました。一日目最後に日本共産党山形県委員長後藤太刀味氏が挨拶されました。(近江谷昭二郎)

運動の飛躍と力量を

関東ブロック会議

十月十四、十五日山梨県石和と一都六県三十一名参加で開催されました(栃木は欠席)。

宮田勝中央本部副会長が「全国大会の示した闘いと同盟の果たしている役割についての認識を深め運動の飛躍を」とよびかけ、討論では参加者全員が発言しました。

支部を結成し、対象を広げ会員を倍加した(川崎)。十六名拡大して三ヶ々の支部に(板橋)。団体の協力で個人署名目標を達成。今年は一六千に目標を引き上げた(千葉)。ゼッケンを胸に集会で訴え目標を達成した(八王子)。署名用紙をいつも手に訴え集めている女性部の活動(神奈川、山梨)。支部づくり強化(山梨)。語りつぎ風化させない活動(茨城、埼玉)など発言。参加者から「皆さんの努力に感激、励まされた」の声。

二日目、冒頭に日本共産党千葉山梨の県委員長が駆けつけ連帯の挨拶。増本一彦中央本部副会長のまとめで、治安維持法が憲法であったことを政府に認めさせるための運動強化、靖国史観に対抗して正しい歴史認識を広範な国民に明らかにしていくための力量をもとと訴えました。(松井久雄)

伊藤千代子墓前に誓う

北信越ブロック会議

会議は九月二十六、二十七日、長野県諏訪湖のホテルで開催

参院選後の、新たな情勢を切り開く活動、論議は五十万署名、十六万会員の実現にむけて集中。長野の長老(九一歳)が「新しい情勢、だれでも出来る署名、今こそ全力挙げて取り組まねば」と元気な署名活動。どんな組合でも対話を積み重ねて署名を広げた支部。会員同志が声をかけあつて署名に取り組んだ活動、信州赤旗まつりの成功と会員拡大を結合した長野県本部の積極的な取り組みなど発言が続きました。

顕彰活動もすべての県で積極的

に取り組んでおり、学習と会員を拡大する機会としている教訓など発言がありました。会議後、伊藤千代子碑を訪ね碑前に前進を誓い合いました。(北村直吉)

旺盛な女性部の活動

東海ブロック会議

十月十六、十七日、岐阜県恵那峡に四県から六十五名が参加して東海ブロック会議が開かれました。

初めに、同盟本部神戸照会長代行より「大企業思想差別・反共労務政策とレッド・パージ」と題して報告があり、各県報告、参加者発言と続きました。最初に岐阜支部の二十五才の女性が学習会で同盟に入会し原水禁大会や戦跡めぐりに参加している発言があり、続いて岐阜支部の女性部が母親大会の実行委員会に参加して成果をあげていること。東濃西支部の署名活動を全会員のものにする努力。静岡県各地で「日本の青空」上映を成功させる努力。愛知県尾西支部の岩田義道の学習、顕彰訪問ツアーのとりくみ、新しい支部建設の努力。三重県の先人の業績発掘

と顕彰の活動など多くの貴重な経験が報告され、今後の前進を誓って会議を終えました。(水野晃治)

魅力ある活動で若ものを

近畿ブロック会議

近畿ブロック会議は九月二十六、二十七日、滋賀県大津市で開かれ、近畿各府県から三十八名が参加。初めに柳河瀬中央本部副会長が、参院選後の新しい情勢と国賠署名の倍加を呼びかけました。

会議では各府県の署名、会員拡大の取り組み、支部活動とともに女性部活動も交流されました。顕彰活動では、冊子「和歌山の治安維持法犠牲者名簿」づくりの経験、「治安維持法特別展」(京都)の取り組みが感銘を呼び、また「不屈バスツアー」も各府県ですめられていることが報告されました。「まとめ」で柳河瀬副会長は「支部づくりを重点課題に、学習、魅力ある活動で若者を同盟に」と訴えました。(西田 清)

お寺の坊さんも感動した活動

中国ブロック会議

九月二十五、二十六の両日、島根県出雲市で六十人が参加して開催。中央本部富矢信男副会長から「全国大会の特徴と国賠同盟の当面の任務」について報告を受け、討論に入りました。

岡山支部だけが目標達成ではだめ、遅れている支部に援助をとお美作支部に、集まったのは三人だったが、そこで三役も決まり、当面の活動計画もできた(岡山)。

入会して初めて会議に参加した真宗の坊さんが「平和のため熱心に活動する同盟の皆さんの凛としたお姿に感動」と述べ、十枚の申込書を持って帰ってくれた(鳥取)。

福山地方の戦前戦中の歴史をまとめた『夜明けの人々』を発売(広島)。女性部は毎月会議と学習会を開き、署名も毎月の目標を決め達成(鳥取)。愛善会の集会で訴え、組織として署名に取り組んでもらった(島根)、など二十九人が発言。

支部の活動と教訓が生き生きと語られ、各県が署名と会員拡大目標の達成することを誓い合い散会しました。(勝部庸一)

拡大なくして発展なし

四国ブロック会議

会議は九月六、七日、高知市の高知会館に四県代表二十一名の参加で開催されました。

冒頭、参院選挙で闘った日本共産党春名なおあき氏が挨拶。

討論では、五〇万署名の達成、会員拡大、支部活動の活性化、顕彰活動など多岐にわたる体験と論議がかわされ、延べ四十人以上が発言。国賠署名五千筆目標達成には、議員が選挙の小集会でも治安維持法とたたかった犠牲者の話をして署名推進の力になったこと、一人で五百筆を集約した女性会員にげまされたこと(高知)。今治支部は、十三名で支部を結成し、その後事務局会議のたびに拡大の対象をあげて働きかけ、現在二十名、署名も大きく発展した(愛媛)。

支部体制強化、会員の学習も多くの発言がありました。

風化させない活動では、来年の榎村浩没後七〇周年の顕彰や、高知県本部発行の「不屈に生きた土佐の同志」の普及に力をつくすことも確認しました。(久保文彦)

同盟運動を飛躍させよう

九州ブロック会議

会議は九月二十、二十一日、宮崎市で開催。参加者は宮崎八名、長崎五名、福岡四名、熊本、鹿児島、沖縄各一名、計二十一名。

会議は、日本共産党宮崎県津島県委員長が激励の挨拶。同盟中央本部の柳河瀬副会長が報告。「来年は、3・15」八〇周年、同盟結成四〇周年の年、署名と同盟組織を飛躍を」とよびかけました。

討論では、顕彰活動がすすみ、犠牲者名簿は梶原会長の努力で完成(熊本)。十一月の県本部総会に秋田から近江谷会長の学習会を計画(鹿児島)。八月県本部総会で講師中央本部近江谷副会長「戦後補償問題」を学習(福岡)。高校教科書の「集団自殺に軍の命令はなかった」としているが歴史の真実を消せない(沖縄)。戦後のレッド・パージの掘り起こしと裁判を闘っている(長崎)など発言。

二日目も討論が続く、まとめで柳河瀬副会長は、新しい国会情勢に対応した同盟の活動を呼びかけました。(橋本幸夫)

顕彰碑
探訪

赤旗で埋められた葬列

製陶労働運動の先覚者 山本誠一

山本誠一は土岐市駄知町出身の製陶労働者で、戦前の労働運動と

りわけ製陶労働者の組織化と運動に心血を注いだ指導者である。

彼は「無産青年同盟員」であり、プロレタリア読書会の指導者として優れた理論家でもあった。

山本誠一はまた、「製陶労働闘争同盟」という全国組織の書記長



として全国的な闘いの先頭にも立った。

大正末期から昭和初期の困難な時代に労働運動の指導にあたった

山本誠一は一九三二（昭和六）年名古屋陶画工組合の争議指導中に急死した。

その葬儀は名古屋・瀬戸・駄知で盛大に行われ、駄知では町中が赤旗で埋められ、葬列は延々と続いたと記録されている。

山本誠一の墓碑は土岐市駄知町の南山墓地の小高い位置にあり、墓碑には「実道玄誠信士」と刻まれている。

南山墓地の近くに土岐市の名所稚児岩・稚児大橋・道の駅どんぶり会館・陶磁器試験場セラテクノ土岐・遊園地陶史の森などがあり、天気の良い日には道の駅どんぶり会館付近から御岳・白山を眺めることができる。

（同盟岐阜支部のパンフ「永遠の灯」より）

当時唯一国内で地上戦が展開された沖縄戦、十六万とも十八万人ともいわれる犠牲者の大半が一般住民。兵士よりも数多く住民の命が奪われたと言われます。

米軍に収容された住民が、米軍の使者として離島のカマ（壕）にひそむ日本守備隊への投降勧告に向けられた際、日本守備隊は投降を拒否した拳銃、使者の老人や婦人たちを殺してしまいました。同じように連行した住民が生き残ると捕らえられてスパイ化するとして親、兄弟、隣人同士、鎌や包丁で斬り結ばせ手榴弾を放って止めを刺す「集団自決」を強要したのです。実態は強制集団死。

時の焦点

この歴史的事実を「集団自決に日本軍の関与があった」とした記述が「高校日本史」の教科書から削除される事態が起きました。文科省教科書担当の調査官が指示した「調査意見書」の結果です。九月二十九日現地沖縄で開かれた「『集団自決』検定意見の撤回を求める県民大会」に十一万

「集団自決」

六千人。一三七万県民の約一〇%、東京に当てはめると優に百万人を越す大集会。実行委員長は自民党出身の県議会議長の中里利信氏。主催者を代表して語りました。

「多くの体験者が私と同様、思い起こすのもつらい当時の記憶を証言されたことに胸が痛む。文科省の検定意見はこれらの重いつしかならない。」

「当事者となる高校生豊見城高校野球部員はユニホー△姿で参加し、名護の農林高校生は四〇人が大型バスを代表して読谷高校の男女二人が訴えました。「私たちのおじい、おばあちがうそをついていると言いたいのではないか」「教科書から軍の関与を消さないで下さい。あの醜い戦争を美化しないでほしい。たとえ醜くても真実を知りたい。学びたい、そして伝えたい。」

県民大会は県民の総意として検定意見書撤回と記述の回復を決議しました。（元）

抵抗の群像

節を曲げず不屈に たたかった村岡貞秋

同盟佐賀県本部編「佐賀県民の現代社会運動概史」より

村岡に対して特高が拷問を加えたかどうかは定かではないが、彼は特高や検事の取調べではもちろん、予審でも黙秘をつらぬいたことは確かである。

一九二九(昭和四)年十二月十五日付「佐賀新聞」は、「本月十三日午後五時予審終結、治安維持法違反により有罪が決定、(佐賀地裁の)公判に回された。」村岡

は中学二年ごろから社会科学にかぶれ、昭和二年佐賀高等学校文科に入学し共産党の主張に共鳴、自らリーダーとなって佐賀県同志を糾合、同主義の運動に没頭し、杵島炭鉱夫七名を説き闘士たるべく勧誘していた」と伝えている。

結局、村岡は「目的遂行」の罪名で公判に付されることとなり、翌月三月十一日の第二回公判で、早くも判決言い渡しがおこなわれ、

懲役三年(未決二百日通算)の実刑判決とされた。

村岡貞秋は、一九〇七(明治四〇)年杵島郡若木村川古(現在武雄市若木町川古)でツバキ油の製造卸業を営み、地主でもあった村岡小一、ヨシ夫妻の三男として生まれた。長女は県立武雄高等女学校に、長男、次男は佐賀師範学校に進学している。

未っ子だった彼も、若木村の尋常小学校から佐賀中学校を経て、一九二七(昭和二)年四月、佐賀高等学校文科乙類に入学した。貞秋の同級生や従兄弟たちは「ユーマウスあふれる話をしてはクラスのみんなを大笑いさせていた」「豪放磊落な性格でしつかりしたからだつき。しかし親戚みんなが貞秋さんのことは今でもタブーとされ、わからないままできた」。

村岡は佐賀中入学後、市内の実姉ツナの嫁ぎ先に下宿して通学していた。ツナの子息は当時のことを次のように語っている。「貞秋さんは佐中五年にあがる前ころから家に帰ってこない日が次第に増えてきた。貞秋さんは『歴史の研究会で友達のところへ勉強しているのだから』心配しないでよい」と言っていた。

村岡は佐賀高に合格後すぐに姉の家から転居し社研の非公然活動に参加した。すでに日本共産党の組織と結びつきを持って活動していたのである。ちょうど三・一五大弾圧事件を契機に非公然の党活動に入ったのである。

三・一五、四・一六と息つく間もない大弾圧で、九州の共産党と共産青年同盟の組織は壊滅状態とされ、県内ただ一人、治安維持法違反の被告人であった村岡の一年十一ヶ月の長期にわたる獄中での闘争は、想像を絶する苦難に満ちたものであったに違いない。しかし彼は弱冠二十二歳の若さで特高の残虐な追及や天皇制権力からのあらゆる脅迫や懐柔策に屈するこ

となく、黙秘を貫き、節を曲げずたたかいた。

この不屈の闘いを支えたものは、中学時代から身につけた科学的社会主義の社会発展への不動の確信であり、人民大衆と党への強固な信頼であった。

村岡は懲役三年の刑期満了後の一九三二(昭和七)年夏ようやく釈放されたが、若木村で彼を待ち受けていたのは武雄署特高係と川古駐在巡查による監視下の生活であった。親から貞秋を監視するようにと言われて出入りしていた従弟に対しても、特高は治安維持法違反容疑で逮捕するしまつてあった。

村岡は親戚にまで手を出す特高警察の弾圧と監視下の生活を断ち切るため、出獄の年の末ごろ大連に向かった。特高の監視はその上陸地点まで続いた。

しかし一九三八(昭和13)年十一月三日、上海へ向かって移動中の列車の中で、入れ替えのバックをしてきた機関車にはねられ、村岡は三十三歳の短い生涯を閉じた。

(抄録・「不屈」編集部)

同盟歌壇

碓田のぼる選

岐阜県 和田 昌三

郡上一揆の遺跡案内板ます五か所建て終えカメラに笑顔の仲間

〈評〉封建時代の庄政に抗した一揆の歴史についての誇りを歌う。

新潟県 加茂川ハル子

死者も出でし恙病今は無く虫神様は草に埋もる

〈評〉恙虫(つつがむし)病は急性伝染病で昔から風土病とい

われたが、今は昔。

静岡県 江川 佐一

子をかばい母は銃弾に斃れたり子は証言に立ち謝罪求むる

〈評〉沖縄戦か、イラク戦か。親を殺された戦争を子は告発する。

東京都 若林 義文

産別会議の頃なつかしく胸躍る八十五歳のパーシ組なり

〈評〉レッドパーシの闘いを回想。労働運動の衰えも嘆くか。

東京都 すず木すみ江

曼殊沙華地に湧くごとく咲き満てば秋霖のときも花あるを識る

〈評〉「地に湧くごとく咲き」と歌っている所は、作者の実感。

和歌山県 中平 喜祥

黄ゆねる田面見てもおぼろはくはわねにもかかぬゆづりあゝのか

〈評〉実りの秋を見つめながら、しほしの平安を味わう自画像。

東京都 山崎 元

鎌で包丁で手榴弾でと鳥の故老集団自決の重き口開く

〈評〉歴史の真実を歪曲する力に抗して、新しく生まれる力。

棚書

「渡辺順三研究」

碓田のぼる著

かもがわ出版 二二〇〇円

本書は、今年、没後三十五年を迎えた戦前からプロレタリア短歌運動の発展に尽力した渡辺順三の研究書である。

新日本歌人協会全国幹事で、歌集『花どき』で、第十回多喜一・百合子賞を受賞した著者が、順三を研究、最初にまとめたのが没後二十五周年を前に上梓した『渡辺順三執筆年譜(一九九六年九月)』。

家具店の住み込み小僧として働いた順三は、十六歳のころから文学に心が傾き、読書に熱中。社会学にも関心し、その眼で時代と短歌を見よとした。そのなかで、一九二〇年代末にはプロレタリア短歌論を執筆するなど戦前、短歌にかかわる三冊の評論集を刊行し、短歌運動の発展に尽力するが、太平洋戦争開始の翌日、一九四一年十二月九日未明、特高に逮捕・投獄された。資料によれば犯罪事実

は、「労働者ノ悲惨ナル宿命ト現実社会打倒ノ必要ヲ強調セル等ノ自作短歌」を發表したことから、渡辺順三と私の四十七年」にふれて、などのエッセーから編まれ、興味深く読ませてくれた。(幹)



は、「労働者ノ悲惨ナル宿命ト現実社会打倒ノ必要ヲ強調セル等ノ自作短歌」を發表したことから、渡辺順三と私の四十七年」にふれて、などのエッセーから編まれ、興味深く読ませてくれた。(幹)



十月五日、十日の中央本部企画「中国平和・連帯の旅」は一都一府八県四〇名が参加しました。三泊した山西省は黄河文明発祥の地であり、かつて日本軍隊が残酷な三光作戦を行い八路军の抗日戦の激戦地となった所。最初の見学地「八路军大行記念館」では九四歳の水谷安子さん(治維法犠牲者)が、平和を願う千羽鶴を史永平副館長に手渡しました(写真)。

**中国平和
連帯の旅**

山西省・北京で市民交流

山西大学・中国国際交流協会と懇談

世界遺産の平遥、喬家大院等を見学の後山西大学日本語科の米彦助教教授や十名の女子学生との夕食会では、各テーブルで活発に話し合い、メールの交換や来日の時の訪問等を約束していました。北京でのハイライトは、「中国国際交流協会」の徐建国秘書長、文徳盛アジア太平洋所長等四名を招いての夕食会です。柳河瀬精团长は「私たちは過去の戦争への正しい歴史認識を広げ、再び戦争と暗黒政治を許さない活動をしている団体」であると挨拶。徐建国氏は「日本の治維法犠牲者国賠同盟のみなさんを古くからの友人として熱烈に歓迎する。あなた方は中国人民の友人です」と述べました。各テーブルは内閣が変わった日本の政治情勢や、歌や踊りの交歓この冬北京で行われる日本浮世絵展の話題で盛り上がりました。この中国での市民交流の旅の報告集は十一月に出来上る予定です。

お詫び

同盟中央本部が作成した「8・15終戦記念日の宣伝ヒラ」に、柳田芙美緒氏撮影の写真を承諾を得ないまま掲載し一部配布しました。関係者の方に謹んでお詫び申し上げます。

訂正

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟中央本部「不届」前月号11頁下段18行目「過半数を占め」は「大きく前進し」に訂正。15頁の寄せられたメッセージに「日本共産党参議院議員小池晃」を加筆。16頁「新役員名簿」の加藤一雄は近藤一雄の誤りです。

事務局日誌

- 10月2、3日 東北ブロック会議
- 10月5、10日 「中国 平和 連帯の旅」
- 10月6、7日 四国ブロック会議
- 10月14、15日 関東ブロック会議
- 10月16、17日 東海ブロック会議
- 10月18日 国際人権活動日本委員会代

表者会議

- 10月18日 「不届」編集会議
 - 10月28日 国民運動大集会
 - 10月29日 故中西三洋さん通夜
 - 10月30日 故中西三洋さん告別式
- 葛飾ヒラ弾圧事件東京高裁傍聴

『治安維持法と現代』

2007年
秋季号



【主な内容】「参院選後の情勢と今後の展望」= 畑田重夫、「日本会議『靖国派』のルーツは特高官僚・戦犯政治家・右翼思想家」= 柳河瀬精、「自衛隊の国民監視を許すな」= 内藤功、「南京大虐殺70周年に思う」= 伊藤敬一、「岩田義道の不屈の生涯に学ぶ」= 水野晃治、「少年の私が見た横浜事件」= ぶじたあさや、「世界に誇るべき革命家 宮本顕治」= 近江谷昭二郎、「宮本顕治の不屈の公判闘争に学ぶ」= 山崎元、「大企業思想差別・反共労務政策とレッドパーシ」= 神戸照、「気骨の作家・社会運動家中西伊之助」= 水谷修、詩= 窪島誠一郎など、学習材料が満載。A5版、定価1000円、送料210円、各都道府県本部でお求めを。

治安維持法と現代を結ぶ総合雑誌

企画・治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟